

を示したが、2例は 10m $\mu$ g/ml 以下であった。妊婦では12例中8例(66.6%)が70~300m $\mu$ g/mlの値を示した。急性肝炎では発症時には全て40m $\mu$ g/ml以下であったが、transaminaseが極期を過ぎる頃より比較的高値を示し、短期間に低値となった。この $\alpha$ -Feto.上昇期は肝細胞の再成期に一致するものと思われる。

質問： 岩崎 一郎(岡大 第2内科)

妊娠の各 Stage および産後における  $\alpha$ -Fetoprotein の変動の状態は如何。

答： 国政 徹明(広大 第1内科)

妊婦同一人について経過を追っているわけではないが、各数週、月数についての検討では10W頃より陽性になり、5、6カ月頃に最高値を示す傾向にある。産後の検討はしていません。

質問： 木下 博史(県立広島病院 放射線科)

私の所でも直腸癌の術後肝転移と考えられる症例で $\alpha$ -Fetoprotein値が320m $\mu$ g/mlを超えた例があり、血管造影像は一見Hepatomaを思われる像を呈していた。先生の例もRectum CancerのLiver metaで非常に高値を示しているとのことですが血管造影像は如何でしたでしょうか。

Sectionはまだありませんので絶対にDouble Cancerでないとはいませんが、Angioのpatternに相似点のあることは興味あると思います。

答： 鷺海 良彦(広島日赤 病院放射線科)

転移性肝癌にも $\alpha$ -Feto.の陽性が出現するものがあるが、それが原発性か転移性によるものかは最終的には剖検を含めて組織検の結果を待たなければ、はっきりしたことはいえないと思う。

質問： 岩崎 一郎(岡大 第2内科)

$\alpha$ -Fetoprotein 高原陽性であった、肝転移性癌の病理組織像は如何。

答： 川上 広育(第1内科)

肝腫大は、肝シンチグラムについてS.O.L.を認め、臨床的に肝癌(原発性)と診断し、剖検にて大腸癌であった症例です。

\*

#### 4. 肝疾患における $\alpha$ -Fetoprotein の Radioimmunoassy について

鷺海 良彦 西谷 弘 高橋 信二  
吉竹 康人

(広島赤十字病院・広島原爆病院 放射線科)

木村 直躬

(同 内科)

$\alpha$ -Fetoprotein の2抗体法によるRadioimmunoassayが開発され、われわれも肝疾患の診断に使用する機会を得たので報告する。

原発性肝癌 5例、転移性肝癌 1例、肝硬変症 15例、慢性肝炎 2例、急性肝炎 2例、その他 3例の計 31例である。原発性肝癌はすべて320m $\mu$ g/dl以上の高値を示し、胃癌の肝転移例でも320m $\mu$ g/dl以上であった。しかし、肝硬変症、慢性肝炎、急性肝炎でも陽性を示したものがあったが、原発性肝癌ほど高値を示したものはなかった。

この方法は、原発性肝癌、とくに肝硬変症に合併する原発性肝癌の早期発見には極めて有用であり、また治療の経過観察には有効なる検査法である。さらに将来、このような $\alpha$ -Fetoprotein産生細胞に対して、これを抑制する薬剤でも開発されるならば、その治療効果の判定にも使用され得るものと考ええる。

質問： 芝 寿彦(愛媛県立中央病院 内科)

$\alpha$ -Fetoproteinの定量値の変化と肝シンチグラムの変化に相関が認められるか否か、またはHepatomaに対する加療で $\alpha$ -Fetoproteinの値の減少が認められたか否か。

答： 鷺海 良彦(広島日赤病院 放射線科)

$\alpha$ -Fetoの陽性いかんは、肝癌の癌巣の大きさ、肝機能検査、組織診断の種類とは関係なく、癌巣が $\alpha$ -Feto産生か、非産生かによるものと考えられる。

$\alpha$ -Fetoは、今後は、①早期診断、②治療の経過観察に使われるべきであり、③肝癌が $\alpha$ -Fetoを産生するならばその産生を抑制するような薬剤が開発されれば、現在絶望的な肝癌の治療に大いに寄与するものと考えます。

\*